



いつでも！どこでも！だれでも使える！ 授業づくりのステップ 1・2・3 Vol.2

平成 30 年 4 月 佐賀県教育委員会

このリーフレットは、「授業づくりのステップ 1・2・3 Vol.1」に掲載した「日々の授業づくりにおける大切な事柄」のうち、「書く活動」と「話し合う活動」に焦点をあて、それぞれにおける教師の主な役割等を示しています。

本リーフレットを活用し、全ての小中学校の先生方の全ての授業において、子どもたちにとってわかりやすい授業、力の付く授業を目指していきましょう。

「書く活動」



教師の主な役割は…

子ども一人一人が自分の考えをもつことができるように、「書く活動」をコーディネートすること！

ここでの「書く活動」は…

授業の中で子ども一人一人が自分の考えをもつための場であり、主に個人で思考し、ノートなどに考えたことを記述する活動のことです。

「書く活動」を取り入れる目的は…

自分の考えを整理するため、考えたことについて話し合う準備のため、自分の考えを表現するためなど様々です。

「話し合う活動」



教師の主な役割は…

子どもが考えを広げたり深めたりすることができるように、「話し合う活動」をコーディネートすること！

ここでの「話し合う活動」は…

授業の中で子どもが考えを広げたり深めたりするための場であり、集団（少人数や学級全体など）で思考し、学習内容のまとめに向かう活動のことです。

「話し合う活動」を取り入れる目的は…

考えを出し合い、認め合いながら、それらと比較し、共通点や相違点を検討し合うことなどを通して、考えを広げたり深めたりするためです。

授業づくりのステップ:「書く活動」の設定について

■ステップ1

必要に応じて、「子どもが一人で考えて書く活動」を取り入れていますか？

- ・「話し合う活動」に向けて自分の考えを書く場面や話し合ったことをもとに考えをまとめる場面などで取り入れることが考えられます。いずれも、目的を明確にして取り入れることが大切です。

■ステップ2

必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」に取り組むことができますようにしていますか？

- ・必要な条件や具体的な書き方として、「〇〇という言葉を用いて書く」、「自分の考えと理由や根拠を書く」などが考えられます。書く目的や内容に応じて、適切な条件を設定することが大切です。
- ・子どもに書かせる前に、予想される子どもの具体的な記述内容を考えておくことが大切です。場合によっては、あらかじめ、教師が書いたモデルを示すことなども有効です。
- ・何のために書くのか、何分以内で書くのかなど、子どもに活動の見通しをもたせることが大切です。

【教師の言葉かけの例】

〇〇〇や△△△などの言葉を使って書きましょう。



自分の考えに加えて、そう考えた理由を書きましょう。

先生は□□□と考えたので、このように書きました。

■ステップ3

自分の書いたものが「めあて」に沿った内容になっているかなどを、子どもが見直せるように手立てをとっていますか？

- ・書いたものが、「めあて」や示した条件に沿っているかなど、見直すための視点を示すことが大切です。
- ・書き終わったら、自分で書いたものを読み返す、書き終わった友だち同士で確かめ合うなど、内容について見直しを促すような言葉かけが大切です。

大切なポイント

- 活動に取り組む前に、書く内容や書き方で分からないことはないか子どもに確かめるなどして、全員が安心して活動に取り組めるようにしていますか？
- 机間指導（個別指導）の際に、記述内容から子どもの考えを把握し、この後の「話し合う活動」の展開を組み立てていますか？
- 机間指導（個別指導）の際に、書くことができていない子どもに対して、個に応じた適切な支援（書き出しの指示、ヒントカード、思考を助ける教具の準備など）を行っていますか？
- 授業後は、子どもが書いたものに、良かった点を称賛するようなコメントを記すなどして、教師による評価を子どもに返すようにしていますか？

授業づくりのステップ:「話し合う活動」の設定について

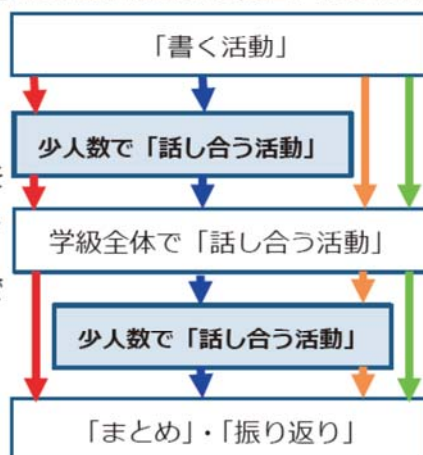
● 少人数で「話し合う活動」 ●

■ステップ1

必要に応じて、少人数で「話し合う活動」を取り入れていますか？

- ・ 少人数で話し合うことのよさは、「自分の考えを伝えやすい」、「何度もやりとりができる」などが考えられ、子どもの主体性を育てたり、思考力や表現力を高めたりすることにもつながります。
- ・ 「話し合う活動」の位置づけ方は、例えば、右の図のように様々です。いずれも、目的を明確にして取り入れることが大切です。

【「話し合う活動」の位置づけ方の例】



■ステップ2

話し合いの目的や進め方、時間などを示していますか？

- ・ 何のために話し合うのか、どのように進めるのか（役割、話し合いのゴールなど）、話し合う時間は何分なのか、話し合った後にどのようなことをするのかなどを子どもに示すことで、見通しをもって活動に取り組めるようにすることが大切です。

【教師の言葉かけの例】



今日は考えを「深める」話し合いです。みんなで出し合った考えに、言葉を加えたり入れ替えたりして、さらによい考えにしましょう。

自分の考えと同じところや違うところなどに気をつけながら、友だちの考えを聞きましょう。

■ステップ3

話し合う内容を魅力的なものにし、話し合う必然性をもたせるなど、子どもが意欲的に「話し合う活動」を進めることができるようにしていますか？

- ・ 話し合う内容は、授業の目標に沿っており、「自分の考えを伝えたい」、「友だちがどう考えているのか知りたい」と思えるものであるのかということを、事前に十分吟味しておくことが大切です。

大切なポイント

- 「自分の考えを広げる」、「グループの考えをまとめる」、「最もよい考えを選ぶ」など、話し合う目的を明確にしたうえで「話し合う活動」を取り入れていますか？
- 話し合った内容を整理しやすいように、必要に応じて教具（付箋、ホワイトボードなど）の使用を工夫していますか？
- 導き出される考えを予想したり、グループの話し合いが停滞していないか気を配ったりしながら、机間指導を行っていますか？

授業づくりのステップ:「話し合う活動」の設定について

● 学級全体で「話し合う活動」 ●

■ステップ1

子どもが考えを発表し、その内容を学級全体で共有していますか？

(子どもの考えなどを)
ひきだす

- ・子どもがもっている知識や考えなどを**ひきだす**必要があります。
- ・子どもからひきだした考えなどを板書することにより、学級全体で共有することが大切です。

【教師の言葉かけの例】

〇〇さんの考えを聞きたいな。



〇〇さん、どうしてそう考えたのかな。

■ステップ2

子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進めていますか？

(子どもの考えなどを)
つなぐ

- ・出された子どもの考えに対して、すぐに教師が返すのではなく、他の子どもへ投げかけるなどして、一人の発言を全体で分かち合えるように**つなぐ**ことが大切です。

【教師の言葉かけの例】

〇〇さんの考えをどう思いますか。



〇〇さんの考えと同じ人はいますか。

〇〇さんの考えの続きを説明できますか。

〇〇さんと違う考えの人はいますか。

■ステップ3

子どもが出した考えを、共通性や関連性などの観点で整理し、みんなに示していますか？

(みんなで考えたことなどを)
もどす

- ・子どもが出した考えを、一緒に比較、分類などしながら整理し、そこから学びを深めるための観点(共通性や関連性など)を導き出します。それを学級全体に**もどす**ことや「めあて」に**もどす**ことで、さらに学びを深め、授業の目標へと迫っていくことが大切です。

【教師の言葉かけの例】



黒板に整理した2つの考えの違いや共通していることはどんなことですか。

A・B・Cの3つの考えの中で、今日の「めあて」に当てはまるのはどれですか。その理由は何ですか。

大切なポイント

- 「書く活動」や少人数で「話し合う活動」を通して一人一人が考えをもつことができているか、誰がどのような考えをもっているのかなどを把握したうえで、学級全体で「話し合う活動」を進めていますか？
- 「どうしてそう考えたの？(理由)」「本当にそうかな？(ゆさぶり)」「例えば、どういうこと？(具体化)」など、発問を工夫して、話し合いが深まるようにしていますか？